

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告



haskap

NEWS LETTER

～ コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

北海道胆振地方はフキノトウがまさに食べごろは過ぎ、5/5 現在でサクラはまだ咲く気配がありません。ホームページにご訪問できなかった方々には年の瀬以来の大変久々のご挨拶になります。会員及び関係者におかれましてはいかがおすごでしょうか。ペーパーでの便りこそございませんでしたが、この間、NPO 苫東コモンズ（環境を抜いて略称）は折からの大雪にもめげず、スノウシューをはいて山仕事をするという、あまりなかった体験をしながら、ほぼ毎週、大島山林の手入れを続けてきました。4月29日、盛大な薪の片づけをしたのですが、完了まであと3日ほどを要しそうです。（^_^;）

NPOは3年目に入っており、今年はコモンズの意味と生物多様性の里山を管理する意義を考え、木材を域内で循環させるエコライフとコミュニティ・フォレストの実践など、目標を絞り込み深掘りする構えができつつあります。団体・個人会員のみならずの会費を貴重なご寄付と考え、身の丈の地域活動をしてまいります。以下、会員と関係者各位への感謝を込めてご報告します。（事務局：草苺）

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/hayashi-kokoro/commons00.html>

12月中旬からの活動報告

各行事最後の数字は参加者数

12/17 sat 大島山林 4、夜、札幌ウッディーズ忘年会参加（講話；草苺）

12/24 sat 大島山林保育 2

11月からの作業延べ人数 40名

2012年

01/03 tue 新年の初仕事 1

01/07 sat 新年の初仕事@大島山林→大雪のため小屋に変更、「運営委員会」3

01/09 mon 実質的初山仕事 4

01/11 wed 大島山林 1

01/14 sat 大島山林 2

01/21 sat " 4

01/28 sat 大島山林 4

02/05 sun " 4

2/11 sat 大島山林 2

2/12 sun 薪組合の座談会「薪ぢからとコモンズ」8

2/15 wed 小屋周辺の観察 1

2/18 sat 大島山林 3

2/23 thu 大島山林 1

2/24 fri 大島山林 1

2/25 sat 大島山林 3

ここまで今年 31 人日、今季累計 71 人日

3/02 fri 新年度事業について苫東会社と打ち合わせ（事務局）1、大島山林保育 1

3/03 sat 大島山林 5

3/07 wed 苫東へ事業計画提出（事務局）

3/10 sat 大島山林保育と藪出し 5

3/17 sat 大島山林保育・藪だし 4

4/01 sun 藪出し作業（苫東ウッディーズ+遠浅関係者）10

4/07 sat 柏原試験地の間伐 3

4/14 sat 植苗病院の周囲山林保育支援（札幌ウッディーズ 合同）30

4/21 sat 落ち枝ツアー（大島山林～つた森山林～ささみちフットパス）7

4/28 sat 薪ヤードの位置出しとテーブル制作 9

4/29 sun 薪祭り 2（丸太運搬と薪割り）16

11月からの作業延べ人数 161人

TOPIC 1

大雪に作業阻まれる



トップでも書きましたとおり、今年はかつてない大雪に見舞われました。特に、tomatohの北端にあたる遠浅は海岸から12km 内陸に入っているせいか、恐らく積雪は70cm以上あったはず。この大雪は、林の手入れの効率に大きく影響しました。（写真）

ただ自然に刃向かって仕方がない、と諦め、深い雪はスノーシューとソリを多用し、雪と仲良くして休まず毎週誰かが手入れ作業を続けてき

ました。結果、予想したよりも成果が出たようです。

うれしいニュースは、踏みしめた雪道を散歩に来る人が増えたこと。歩くスキーがほとんど見られなくなった反面で、踏み分け道に親子連れの歓声が響きました。今年是一年を通じて歩けるように、案内看板やサインの付け替えなど、フットパスの充実にさらに心がけたいと計画しています。

TOPIC 2

柏原試験地の保育に着手



緑に囲まれた工業基地(インダストリアル・パーク)を目指してきた tomatoh は、工業用地と周辺農地や住宅地の間に緩衝緑地をふんだんに確保する計画で進んできましたが、昭和50年から、この緩衝緑地をどのような樹種で、どのような土地改良を加えて実施していくか、という植栽試験が、北海道開発局からの委託調査として進められ、以後、3つの試験地と植生を用いた景観形成など、生育環境の厳しい tomatoh のなかで先駆的な試みが行われてきました。

NPO は昨年から、この試験地の一つ、柏原試験地の埋もれた価値を掘り出すべく、アクセス路を刈り払い、続く今年には、樹高10mを越えるドロノキの間伐と、アカエゾマツの枝打ち(写真)に着手しました。作業は雪解け後、新緑までの短い期間に行われましたが、今後は森林療法の一環として活動フィールドとしても活用され、NPO が位置づけている「沿道多用途地区」の中心として周辺の修景に傾注する予定です。

TOPIC 3

植苗病院の外周の林を整備

身近な森づくりを実践する当NPOとその前身は数年前から林の中の精神科病院である植苗病院の外周の雑木林を保育支援とフットパスの敷設・管理を行っていますが、今年4月14日(土)札幌ウディーズと合同で、保育作業を行いました。特に今年、斜面のため歩きにくかった50m区間に、切り盛りを施してフラットな径を造りました。これで歩きにくさは解消され、患者さんの日常的な散策の手助けになると病院側に喜ばれました。

TOPIC 4

薪づくりを仕組みづくりへ



今季の薪づくりはこれまでの反省からいくつかの改善を行いました。まず、薪材の藪だしにあたって、3尺、4尺、5尺と30cmの倍数で丸太を作っていたものを、できるだけ持ちやすいようにさらに短く玉切りするよう、心がけたこと。

次に、生産された丸太の量を適格に把握し、保育計画と薪の配分に役立てるため、「棚」という薪の単位を取り入れたこと。「棚」とは幅2尺(60cm)、高さ5尺(1.5m)、長さ10尺(3m)のかたまりを指しますが、見かけではこれで2.7立米あり、通常の家では3ヶ月分の薪の量に相当するようです。この計算で行けば、今季の手入れの産物はざっと60立米に達するのではないかと、という観測が出されています。

その一方で新たな改善が求められているのは、幅2尺の「棚」は工夫しないと倒れやすいこと。これは薪の長さ規格を40cmに拡大して安定させる方法がありますが、いろいろな薪ストーブに対応できる標準サイズとして支障がないか、次期までにヒアリングをする必要があります。

編集後記 今季の冬はチェーンソー仕事に明け暮れましたが、隠れたトピックスは新人会員の参加。苫小牧に転勤されたサラリーマン、公務員、札幌の元大学の先生、お医者さんなどを多様な職業の面々です。参加しながら薪づくりをする仕組みへの賛同、ハスカップ保全という目立たない湿原保全にまじめに取り組みに共感していただいたことなどが背景にあるようです。

24年度には、このハスカップ保全へのアプローチのほか、育林コンペを再開するなど、新しい取り組みが加わりますが、この様子はHPでその都度ご報告して参ります。

また、遠隔地の会員で苫小牧方面へお出かけの方、現場を見てみたいとご希望の方は、ご一報下さい。メンバーの誰かがご案内できるよう調整してみます。(事務局)

お問い合わせ

NPO 法人苫東環境 commons 事務局

草苅 kt-884-556@nifty.com

携帯 090-6999-2765